クラシック名古屋
〒460-0024
名古屋市中区正木四丁目8番7号れんが橋1F
TEL(052)678-5310 FAX(052)678-5330
http://clanago.com
プレイガイド
アイ・チケット
☎0570-00-5310

ナゴヤ劇場ジャーナル®

◆発行／マネージメント・プロ　◆編集／プランニングオフィス白壁　◆協賛／クラシック名古屋

MANAGEMENT PRO
業務内容
①舞台・イベントの企画・制作・マネージメント
②芸術コンサルティング
③タレントのマネージメント
④ナゴヤ劇場ジャーナルの発行
株式会社マネージメント・プロ
〒461-0004 名古屋市東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル305
TEL：052-508-5095　FAX：052-508-5097
E-mail：mane-pro@mane-pro.com
HP：http://www.mane-pro.com

2018年〝トリプル・バレエ・コンペティション〟

大菅祐未、竹中俊輔らが第1位

高いレベルと栄冠をめざし、若い力が躍動した―。記録的な猛暑を記録した名古屋で、今年も〝トリプル・バレエ・コンペティション〟が開催され、全国から999（昨年1241）人のダンサーが参加。厳しいレッスンで培った美と技を競った。

東海地区の❶❷❸位入賞者（所属）は次の通り。

〈ザ・バレコン名古屋〉（8月14―19日・アートピアホール、参加282人）

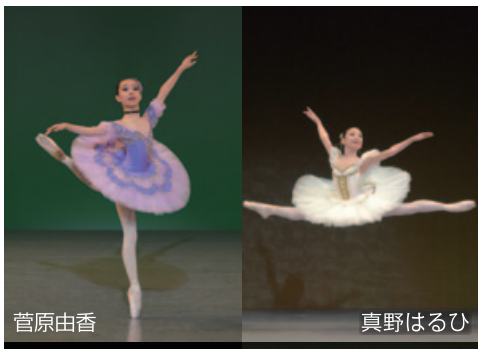
▽女子ジュニアB❶真野はるひ（MAICOバレエスタジオ）❷大矢十和子（エリカバレエスタジオ）❸村口雫（同）▽女子ジュニアA❶長瀬桃華（Ecole de ballet MU）❷河地莉乃子（松岡伶子バレエ団）❸水野七菜子（同）▽Young Lady & Young Man❶竹中俊輔（松岡伶子バレエ団）❷御沓紗也（神谷久実子バレエスクール）❸間瀬琴乃（松岡伶子バレエ団）

〈バレエコンペティション21〉（8月22―26日・アートピアホール、参加342人）

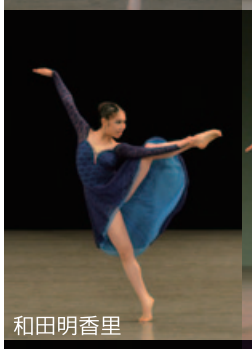
▽プロ17歳以上❶大菅祐未（テアトル・ド・バレエアカデミー）❷加藤恵梨（同）❸和田明香里（同）▽プロ12～16歳❸河村優良（小原芳美バレエスタジオ）▽男女17歳以上❶大菅祐未（テアトル・ド・バレエアカデミー）❷加藤恵梨（同）❸佐野まひる（KUBOTA BALLET 車田スタジオ）▽女子15～16歳❷高田梨央（森高子バレエ教室）❸本田悠亜（KUBOTA BALLET 車田スタジオ）▽女子13～14歳❷梶間葵（KUBOTA BALLET 車田スタジオ）▽女子11～12歳❶林美羽（小原芳美バレエスタジオ）❸鈴木花菜（神澤千景バレエスタジオ）▽女子9～10歳❶菅原由香（バレエスタジオ Coeur d' Ange）❷中上凛紗楽（小原芳美バレエスタジオ）❸森本彩花（Ballet Studio-Myrtle）▽男子13～16歳❷高橋青（森高子バレエ教室）▽男子8～12歳❷木村建心（KUBOTA BALLET 車田スタジオ）▽コンテンポラリー個人❶和田明香里（テアトル・ド・バレエアカデミー）❶中村友子（同）▽同グループ❶かやの木芸術舞踊学園

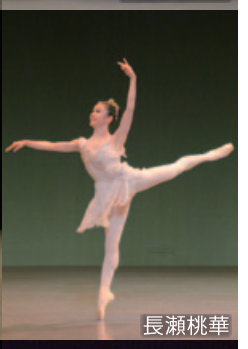
〈全国バレエコンクール〉（8月29日―9月2日・芸術創造センター、参加375人）

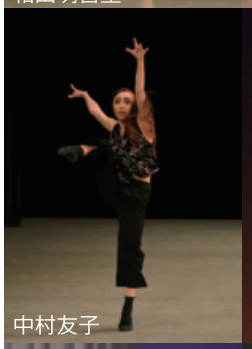
▽女子ジュニアA1❶近藤世梨（越智インターナショナルバレエ）❸山田莉世（小原芳美バレエスタジオ）▽女子ジュニアA2❶沼本小春（バレエアカデミー・スタジオエトワール）❷杉浦ひなた（Belluce ballet）▽女子ジュニアB❷近藤ひなの（厘奈クラシックバレエカンパニー）❸三浦杏花莉（バレエスタジオ Coeur d' Ange）▽女子ジュニアC（東海地区該当者なし）▽女子シニアA❷新井雛乃（バレエスタジオ Coeur d' Ange）▽男子ジュニアA❷小嶋萌生（S・Kバレエ）❸北村竜聖（田川陽子バレエアカデミー）▽男子ジュニアB❸中島貴大（バレエアカデミー RELEVÉ）▽男子シニア❷南野高廣（ゆかりバレエ）

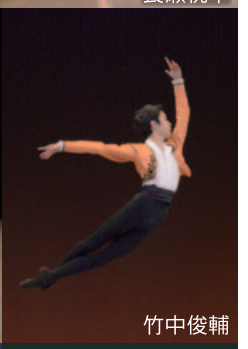

菅原由香

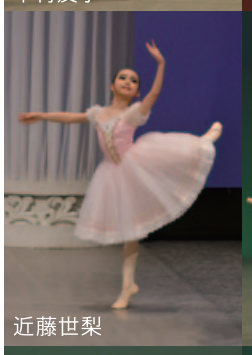
真野はるひ

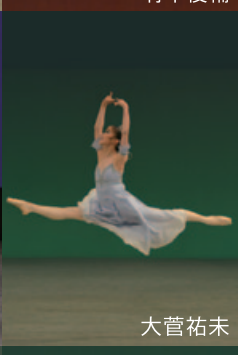

和田明香里

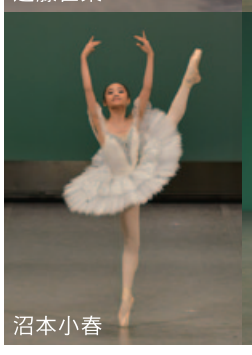

長瀬桃華

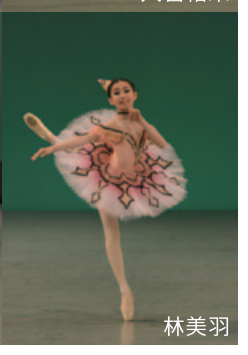

中村友子


竹中俊輔


近藤世梨


大菅祐未

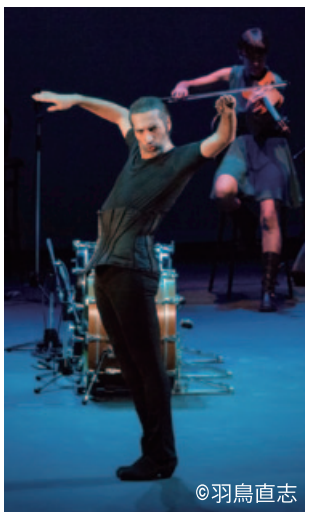

沼本小春


林美羽

フラメンコのガルバンが再来名!!
11月2、3日 芸創で「黄金時代」

2016年の「あいちトリエンナーレ」で「SORO」「FLA. CO. MEN」（いずれも日本初演）の2作を披露し、ダンスファンを魅了したフラメンコダンサーのイスラエル・ガルバンが再び来名。11月2日（午後7時）3日（午後3時）芸術創造センターで自身の代表作「LA EDAD DE ORO～黄金時代」を踊る。

フラメンコの本場、スペインのセビリアで生まれ、若くして正統派フラメンコの舞踊家として認知されたガルバンは、革新的フラメンコの旗手としても知られ、多くの現代作品を創出している。今回踊る「黄金時代」は、伝統的なフラメンコの音楽と最新のテクニックを混在させたガルバンの傑作。


©羽鳥直志
イスラエル・ガルバン

出演はカンテ（歌）のダビ・ラゴス、ギターのアルフレド・ラゴス、そして演出・振付・ダンスのイスラエル・ガルバン。

全指定席7000円、25歳以下3500円。主催、問い合わせは愛知県芸術劇場℡052（971）5609。

DanSkate ダンスケイト
バレエショップ
http://danskate.com
TEL 052-265-7900

シャンソンの扉

真冬の国から酷暑の名古屋へ

⑰ ELENA

世界の各国を訪れ、愛するタンゴを歌うELENA（アルゼンチン出身）。来日は初。東京、京都を経て、猛暑の名古屋でその歌声を披露した。

「びっくりする暑さです。私は2年前からオーストラリアのメルボルンで生活しています。オーストラリアはいま冬。ここでは寒さは想像もできません」と笑う。

ELENA㊨と青木菜穂子

「日本でもタンゴが盛んに演奏されていると聞きました。そして演奏に触れ、レベルの高さに驚きました。私は最初ダンサーでしたが、足の故障でシンガーに転身しました。歌うようになって深い詩の世界に魅力を感じるようになりました」

日本でELENAの伴奏を務めたのは、タンゴピアニストとして国内外で活躍する青木菜穂子。彼女にELENAの印象を聞くと、「歌声がとても美しい。張り上げて歌うタイプではなく、歌詞に寄り添い情感を込める歌手。彼女には、とても大きな可能性を感じます」と上々の評価。

「有名になりたいとは思っていません。小さな会場で、リスナーと触れ合える喜びを大切にしたい」と控えめに語るELENA。「シンガーとして、母として、世界がより平和になることを願っています」とも。

清洲MDA「なかの国際」でV！

石原弘恵が主宰する清洲MDA（モダンダンスアカデミー）が「第20回なかの国際ダンスコンペティション」（8月11―19日・なかのZEROホール）創作部門で第1位・なかの洋舞連盟賞を獲得した。

同コンペでの優勝は初。受賞作「囲～ヨリドコロ」は〝存在感〟をテーマにした6人の群舞。石原は「昨年は3位。今年こそ、その意気込みで練習を重ねてきました。念願がかない感激です」とVサイン。

●ゲスト
アンドレイ・クードリャ（A&S バレエ教室）
浅井敬行（志村バレエ）
越智友則（越智インターナショナルバレエ）
杉浦恭太（東京シティ・バレエ団）
瀬田　朗（松岡伶子バレエ団）
●スタッフ
芸術監督：岡田純奈
振　　付：アレクサンドル・ミシューチン
　　エレーナ・A・レレンコワ　他
主　催：岡田純奈バレエ団
後　援：中日新聞社
　　愛知県教育委員会
　　ANET 愛知芸術文化協会
PROGRAM
27日(土)
＊「フェアリードール」より
＊「フローラの目覚め」
28日(日)
＊バレエコンサート
10/27 土
17:30開演（17:00開場）
28 日
15:00開演（14:30開場）
日本特殊陶業市民会館
ビレッジホール
入場料:2,500円
全自由席（当日券 3,000円）＊税込
※3歳以上のお子様はチケットが必要です
AUTUMN CONCERT 2018
岡田純奈バレエ団 オータムコンサート2018
●チケットのお求めは pia.jp/t
チケットぴあ
岡田純奈バレエ団
Tel.0570-02-9999（Pコード：488-364）
URL：http://pia.jp/t/chubu/
お近くのチケットぴあスポット、セブンイレブン、サークルKサンクスでも直接お買い求めいただけます。
※チケットぴあは、10月27日分のみの発売となります。
●お問い合わせ
岡田純奈バレエ団
☎(052)788-1880
http://www.okada-ballet.com

わたなべこうじマンガ劇場

定期演奏会のテーマは〝傑作〟 名フィル来年度のラインナップ

名古屋フィルハーモニー交響楽団が、来年度（19年4月～20年3月）の主な演奏会のラインナップを発表した。

就任3年目を迎えた小泉和裕音楽監督は、来年4月から4年間の再任が決まり「楽員との音楽上の理解、信頼関係がかなりできたと思う。2期目はさらに進歩、発展を目指したい」と抱負を述べた。

音楽監督・小泉和裕

定期演奏会は改装が終わる愛知県芸術劇場コンサートホールに戻る。通年のタイトルは「マスターピース（傑作）」。例えば4月19、20日の〈未完の傑作〉は、モーツァルト「レクイエム」、10月11、12日の〈最大の傑作〉はシューベルト「交響曲第8番・グレイト」。

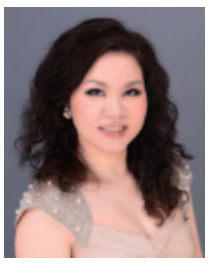
20年1月17、18日には、かつて常任指揮者を務めた沼尻竜典がワーグナー「ニーベルングの指輪」（沼尻版抜粋）で登場する。

市民会館名曲シリーズは「ロシアン・フェスティバル」。7月18日には米寿を迎える元音楽監督の外山雄三がリムスキー＝コルサコフ「シェエラザード」ほかを聴かせる。

「アイーダ」「蝶々夫人」のアリア。共演は加藤利幸（テノール）、新野智子（フルート）石山英明（ピアノ）。和服、チマチョゴリなどの伝統衣装も楽しみ。

全自由席3000（当日3500）円。℡052（265）7405。

韓国出身、名古屋で学んだ崔利先 10月31日 電気文化でリサイタル



崔利先（ソプラノ）

韓国ソウルで生まれ、20年前にオペラ歌手をめざして来日。名古屋芸術大学で学んだ崔利先（チェ・リソン）が、10月31日（午後7時）電気文化会館でソプラノリサイタルを開く。

名芸大（本科、研究科）卒業後、2014年に名古屋二期会会員となり、16年には藤原歌劇団正団員に。「今回のリサイタルで、ソウルと名古屋のお世話になった皆さんに感謝の心を歌で伝えたい」と意気込む。

プログラムは日本、韓国の歌曲、そしてオペラ「アイーダ」「蝶々夫人」のアリア。共演は加藤利幸（テノール）、新野智子（フルート）石山英明（ピアノ）。和服、チマチョゴリなどの伝統衣装も楽しみ。

全自由席3000（当日3500）円。℡052（265）7405。

17日 山崎ていじ迎え 津市で盲導犬・介助犬 育成支援イベント開催

山崎ていじ

三重県在住の演歌歌手・山崎ていじが10月17日、津市アストホール「盲導犬・介助犬育成支援イベント～共に歩もう夢の橋～」（午後2時、6時）に出演する。

山崎は元プロボクサーという異色の経歴で、01年に歌手デビュー。14年に「昭和男唄」で日本有線大賞新人賞を受賞し、現在は東海を拠点に活躍している。

同イベントは補助犬の育成を支援するNPO法人「Misatoフレンズ」の20周年記念企画で、名古屋、福井、西宮に続き4カ所目の開催。高校生の時に母が病気で全盲となった山崎は、同法人の活動に共感。全会場に出演している。

イベントでは補助犬のデモンストレーションが行われた後、山崎が新曲「夢の橋」などを歌う。会場内では、補助犬とのふれあい体験、グッズ販売が行われる。

全席自由4500円、学生1000円、未就学児無料。℡090（7740）0105。

テアトル

米沢 唯

□塚本洋子テアトル・ド・バレエカンパニーは11月18日（午後5時）市民会館ビレッジホールで深川秀夫振付の「ガーシュイン・モナムール」と井口裕之振付の「オリンピア」を上演する。

前者はモーツァルトとガーシュインの音楽を用い、古典的かつ現代感覚にあふれるバレエシーンを展開する。主演にはテアトル出身で、新国立劇場バレエ団プリンシパルの米沢唯を迎える。後者はさまざまなスポーツをモチーフにしたコンテンポラリー。

全指定席S7000、A6000、B5000円。℡052（723）1927。

岡田バレエ

□岡田純奈バレエ団では10月27日（午後5時30分）28日（午後3時）市民会館ビレッジホールで「AUTUMN CONCERT」を開く。27日は「フェアリードール（抜粋）」「フローラの目覚め」、28日はバレエコンサート。出演は越智友則、杉浦恭太、アンドレイ・クードリャほか。

全自由席2500（当日3000）円。℡052（788）1880。

名鶴ダンス

□名鶴ダンスカンパニーは10月21日（午後1時30分、5時）アートピアホールで「Nous 18th ～Letter」を上演する。名鶴ひとみの作、演出。手紙をテーマにした3話のドラマを展開する。振付はJUN、港ゆりかほか。名鶴自身も出演する。

全指定席4000（当日4500）円。℡052（251）8790。

モーツァルトの「バスティアン～」 11月16、17日 芸術劇場で上演

モーツァルトが少年時代に書き下ろしたコンパクトなオペラをコンパクトなホールで―。愛知県芸術劇場では11月16日（午後7時）17日（午後2時、6時）同小ホールで「バスティアンとバスティエンヌ」（演出・太田麻衣子）を上演する。

羊飼いの娘バスティエンヌ（伊藤晴・柴田紗貴子）と恋人のバスティアン（中井亮一・吉田連）、そしていんちき魔法使い（田中大揮）の3人が繰り広げる恋物語。歌はドイツ語（日本語字幕付き）、せりふは日本語で上演。本編のほか、モーツァルト作曲のオペラアリアも。

演奏は角田鋼亮・指揮の愛団室内オーケストラ。全指定席、一般6000円、25歳以下3000円。℡052（971）5609。

松岡伶子バレエ団が東京、名古屋で好演

日本バレエ協会（岡本佳津子会長）が創立60周年記念「全国合同バレエの夕べ」（8月3、4日・新国立劇場オペラパレス）を開催した。

全国13支部が15作品を上演。中部支部（松岡伶子支部長）は松岡璃映再振付のキーロフ版「パキータ」を披露。主役の西田悠乃、碓氷悠太、パ・ド・トロワの高橋莉子、吉村菜奈子、市橋万樹らが優れたステージを展開した。

碓氷は九州北支部の「レ・シルフィード」にも詩人役で出演。また東京地区の「クラシカル・シンフォニー」には松岡伶子バレエ団出身の佐々部佳代が主役を踊り、中部勢の高いレベルを実証した。

名古屋で行われた松岡伶子バレエ団アトリエ公演（8月5日・芸術創造センター）では、松岡璃映振付の「道化師」を皮切りに7作品を上演した。

前半は「ダイアナとアクティオン」が華やかだった。ダイアナは兵藤杏、アクティオンは安部喬。兵藤は全身で歌うように踊った。続いて山下実可、山田裕也による「ジゼル」。ラストは18人による「マスカレード」。

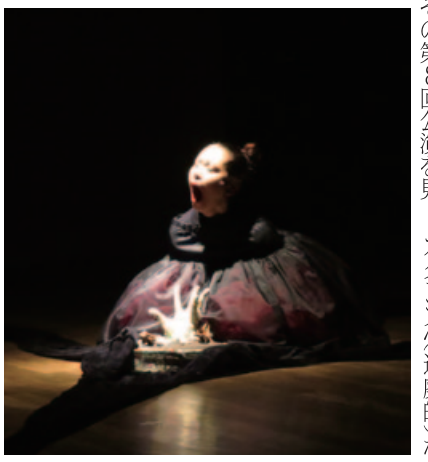
主作品は「ドン・キホーテ」（第3幕より）。18人のファンタンゴ（民族舞踊）が壮観で、3組のボレロが組み込まれ豪華な仕上がり。主役の〝悠・悠コンビ〟（西田悠乃、碓氷悠太）が軽快にラストを締めくくった。

（寺村 敏）

舞台批評

N・D・S

倉知可英らが独自の世界観



倉知可英「黒い根っこに花が咲く」

東海地区の現代（コンテンポラリー）舞踊界をけん引する倉知可英が、自身のスタジオで斬新なダンサー、作品を紹介する「ナゴヤ・ダンス・シーン」。その第8回公演を見た。今回は、倉知のほか元・山海塾の浅井信好ら6組のダンサーが参加。それぞれが追求する独自の世界観を表現した。

印象に残ったのは、倉知が自作自演した「黒い根っこに花が咲く」。黒い球根から、毒々しく巨大な紅い花の咲く様を描いたダンスアート。私は〝デカダンス〟（退廃的）などという、古めかしい言葉を連想した。

魂宮時と伊藤真子らによる「清流」（振付・魂宮時）からも、強いインパクトを受けた。〝神〟の前で演じられる、太極拳のような緩やかで切れ目のない男女の舞踊。まさに清流に洗われたような、心地よさである。

2015年に始まった「ナゴヤ・ダンス・シーン」は、今回で20ステージを行い、1054人を動員している。ダンサーにとっても、観客にとっても、刺激的な空間として認知されたようだ。

（8月25、26日・studio k.k. nagoya）

名作「金色夜叉」にチャレンジ

きりんプロジェクト

「新釈金色夜叉」（演出・大嶽隆司）

「今月今夜のこの月を、俺の涙で曇らせてみせる」。庶民の哀歓を情感豊かに描いた新派を連想させる舞台。年金受給世代には、懐かしく感慨深い舞台だった。きりん演劇プロジェクトの「新釈金色夜叉」（作・宮本研、演出・大嶽隆司）だ。

「日常から飛び立ちたい」と、許嫁（いいなずけ）の貫一を見捨て、資産家の御曹司と電撃結婚した宮（みや）。怒り心頭した貫一が、熱海の海岸で宮を蹴り飛ばした?!伝説のメロドラマである。

原作は尾崎紅葉が、明治30―35年に新聞小説として書き下ろした作品。実際新派でも度々上演された人気作だが、現代の感覚では戸惑う部分も多い。〝きりん〟の俳優たちが、それなりに当時の雰囲気を醸し出していたのは、近代戯曲に造詣の深い大嶽の手腕。そして絶妙のタイミングでドンピシャの曲を流したスタッフワークである。

果たして主人公・宮は、自分勝手な悪女だったのか、それとも自立する女性の先駆けだったのか―、確かに分かるのは、これが明治の男の視点で書き下ろされた戯曲であるということだ。

県立芸大出身の秀英女性トリオ

トリオデフレーズ

チェロ紫竹友梨。出身地はまちまちだが、いずれも愛知県立芸術大学で学んだ秀英で、容姿にも恵まれた女性トリオである。

5／Rホールは2016年に次いで2度目。今回はファーストアルバム「紡ぐ」のリリースを記念してのコンサート。演奏曲は「リベルタンゴ」や「チャルダッシュ」など、アルバム収録曲が中心。

「やんちゃな妹たち（ヴァイオリン、チェロ）をたしなめながら見守る長女（ピアノ）」というのが、私の受けた印象。2本の絃が互いに主張するのではなく、引き立て合う意識が高まれば、音楽性は増すだろう。

トリオデフレーズ（5／Rホール）

歌は◎も、フットワークは×

二期会オペラ研究会

名古屋二期会の有志で結成するオペラ研究会が、コンサート「Viva Opera! Vol2」を開いた（9月9日・東文化小劇場）。

1部と2部は「ロジーナとフィガロの二重唱」などオペラのアリア8曲。3部は「リゴレット」（ヴェルディ）のハイライト。一般公演ではあるが、若い声楽家の勉強の場と解釈して感想を述べたい。

まず感じたのは、大半の出演者に、舞台人としてのフットワーク（演技力）が欠けていること。歌にも動作にもだ。声楽家にとって最も大切なのは「歌」。それは百も承知だが、オペラは物語であり、役作りが要求されるのは当然。衣装に無頓着（特に男性）なことも気になった。

フットワークや演技力は一朝一夕に習得できるものではない。そこで提案したいのがヴィジュアルからの役作り。つまり衣装で自分をその気にさせるのである。

「リゴレット」では、ヒロインのジルダをキャラクターの異なる4人が演じた。総合力で勝る天野久美以外は一長一短。12月には舞台演技のためのワークショップがあるという。大いに切磋琢磨してほしいものである。

天野久美と西本佑

西脇佐和子の独創的オリジナル

KASH

極めて独創的なアンサンブル、そして高度な演奏技術―、かつてない種類の音楽を聴いた。名古屋市出身のピアニストで作曲家の、西脇佐和子が主宰する「KASH（カッシュ）」の演奏会である（9月8日・HITOMIホール）。

林こずえ（ヴァイオリン）、向井航（チェロ）、小林洋二郎（パーカッション）そして西脇（ピアノ）のカルテット。プログラムは現代音楽のようでもあり、ヨーロッパの民族音楽のようでもある、革新的な西脇のオリジナルが中心。

KASH（HITOMIホール）

大半の曲がリズムも調性も一定ではなく音数が多い。奏者の指が猛烈な速さで楽器を駆ける。優れた奏者が、何度も練習を重ねて、ようやく公演で演奏することのできるレベルの難曲である。国際的チェロ奏者の向井は「この難しさは癖になる」と苦笑する。確かに、聴き慣れれば面白い曲である。

ちなみに西脇は明和高校から桐朋学園大学、さらに東京藝大学院を修了した才人で、彼女のオリジナル曲はNHKの「キッチンが走る！」「日曜美術館」ほかで使用されている。

私が最も気に入った曲は「真夏の夜の夢」。シェイクスピアのドラマを連想させる名曲。最も彼女らしくない穏やかな曲である。

問奏曲

クラシックの疑問を楽しく解明

千種のHITOMIホールが企画した「クラシック♪ギモン解明」のシリーズ第1回（6月）はバッハとヘンデルを特集した。作曲家でピアニストの加藤昌則が、同じ年同じ国に生まれたが、異なる道を歩んだ2人の音楽や人物像などを比較、分かりやすく解説した。

同時代、同じ国でも作曲家によってかなり違いはある。そんな2人を比較する企画は少ない。加藤の豊富な知識と巧みな話術で初心者でも楽しめたと思う。2回目は11月10日「シューベルト＆シューマン」、3回目は来年1月18日「ドビュッシー＆ラベル」。いずれも午後3時から。

この後も何回かできそうで、続きが楽しみだ。

（上原宏）

バッハとヘンデルは同じ1865年にドイツで生まれた。今年はその生誕333年。半端な数という気がしなくもないが、トリプル3という年はそうはない。

9月17日に東海バロックプロジェクトが開いた333年の記念祭コンサートは、2人の代表曲を並べた楽しい内容だった。

私たちは「ナゴヤ劇場ジャーナル」を応援します

青山　皆江　小倉ひろこ　玉田　弘子
秋田巳喜子　越智久美子　つつみあつき
阿久津紀子　小野由加利　手塚　淑子
浅井　尭子　加藤　静子　戸田美江子
荒川　洋子　金澤　志保　中川　幸作
出田　光代　蟹江　尾八　仲条　優理
伊藤　敬　黒沢　優子　夏目　久子
伊藤　直樹　小池　真琴　名鶴ひとみ
稲垣　舞比　工藤寿々弥　西川　長秀
井上　初子　榊原菜生未　野々山保治
斎　千龍　佐藤　典子　野村　祐子
植村麻衣子　佐藤美智子　服部　節子
内田寿千代　澤脇　達晴　服部はる江
内田　寿典　島田　倫子　花柳　磐優
内田　寿晴　白樺　八青　林　雅仁
内田　寿哉　瑞鳳　澄依　渕本晴都子
内田るり翠　すぎうらとしはる　松本　道子
内田るり千鶴　鈴木久美子　見波　紀子
内田るり美　鈴木　文雄　みやちともこ
内田るり美知　角田真優美　宮西　圭子
大寺　資二　髙橋　肇　山口　雅子
岡田　一男　武市　孝三　よしみゆうこ
岡田　純奈　竹元まき子　渡部　千枝
岡崎　保彦　田淵友佳理　ほか

和光写真／㈲テス・大阪／㈱三光／Hide Dance Lab.／㈲ビデオ教映社／松岡伶子バレエ団／川口節子バレエ団
演劇集団キャラメルボックス／NORIKO BALLET STUDIO／かやの木芸術舞踊学園／春日井市日本舞踊協会
特定非営利活動法人日本室内楽アカデミー 理事長 佐々木伊利子／Office KAN／メリー・アーティスツ・カンパニー
フィルハーモニカー・ウィーン・名古屋／明珠会　山村楽乃／川島ナナバレエ団／スマイル・ミュージカル・アカデミー
安田美香子バレエ団／ミュージカルアカデミーKAO／神谷久実子バレエスクール

会員募集

「ナゴヤ劇場ジャーナル」では発行をご支援いただけるサポート会員を募集しています。会費は年間6480円（税込み）。会員には小紙を毎号お届けするほか、紙面にお名前を掲載（希望者のみ）。会員の関係する公演、イベント情報を優先的に掲載させていただきます。

お申し込み、お問い合わせは㈱マネージメント・プロ℡052（508）5095。

郵便振替口座00880―6―206130。

上原宏の☆音楽☆聴き歩き

シューベルトソナタ全曲に挑む

ピアノ・国府華子

ピアノ国府（こう）華子（愛教大准教授）が、満を持して臨んだシューベルトのピアノソナタ全曲演奏会（9月16日・5／Rホール）がスタートした。

演奏時間が長いうえ、理解しにくいシューベルトのソナタが好きな私でも、生で聴いたのは半分もない。

初回のプログラムは「第1番ホ長調」「第10番ハ長調」「第17番ニ長調」で、前半の2曲はシューベルトに多い未完成の作品だった。

30分を超える17番は、初回を飾るにふさわしく、冒頭から勇壮で躍動感がある。最後まで緊張が持続し、シューベルトらしい叙情性もよく表出されていた。まずは上々のスタートと言えよう。

これは彼女のライフワーク。自分の6年後を考えると、不安もあるが、最後まで聞き届けたい目標ができた。

印象残ったシサノの「モヤ～風」

弦楽五重奏

「大地の風薫る」と題した弦楽五重奏（8月21日・HITOMIホール）。思わぬ曲に出合えた。

バイオリン平光真彌、森由紀子、ビオラ江頭摩耶、チェロ寺田達郎、コントラバス山崎貴代。愛知県立芸大出身の中心の中堅どころがメンバー。

弦楽五重奏は四重奏に比べ作品が少ないため、あまり演奏されない。好きなドボルザークが聴けると期待したが、それは「3番作品97」で、この日演奏されたのは「2番作品77」。力強い骨太のドボルザークで、こちらも良かった。ただもう少しスラブ的な叙情性と軽快さがあってもいい。

バルトークの二重奏、ドボルザークの三重奏と変化もあって楽しめたが、最も印象的だったのは、モザンビーク（アフリカ南東部）の若い作曲家シサノの「弦楽五重奏曲・モヤ（風）」。江頭が指導に訪れている縁で演奏が実現したが、アフリカの大地を渡る熱い風を感じさせる佳作だった。

期待裏切らぬソプラノの優等生

日比野景リサイタル

オペラやミュージカルなど幅広く活動中のソプラノ日比野景のリサイタル（8月22日・HITOMIホール）。期待を裏切らない〝旬〟の魅力が味わえた。

前半はちょっと意外な？日本歌曲。「芭蕉布」「曼珠沙華（ひがんばな）」から「夏の思い出」「椰子の実」、井上陽水の「少年時代」までさまざまな選曲で親しみやすい。特に宮沢賢治が作った「星めぐりの歌」が耳に残った。

ユニットを組んでいるテノール吉田顕を招いて「トスカ」「ウエストサイド物語」などの名曲でも楽しめたが、ささはらなおみのピアノ伴奏は、曲に合わせた表現力がとてもよかった。

日比野は声質の良さ、自然な発声、演技力と三拍子そろった優等生。しかし、それだけでは物足りない。さらに上を目指してほしい。

奏でる人を聴きたい人へ　人と音を結ぶ
クラシック名古屋
052-678-5310
金山総合駅 南口より徒歩3分
名古屋市中区正木4-8-7　れんが橋ビル1F

クラシックコンサートのチケットは
アイ・チケット　0570-00-5310
（10:00～17:00 ※日祝休み）
アイ・チケット web 検索
※お好きな時間にお好きな席を選んでクリック!!
カード決済・コンビニでのお支払いができます。

クラシック名古屋のプレイガイド
「アイ・チケット」
多くのクラシックコンサートのチケット販売から、ホール、座席のことまでオペレーターが、丁寧に対応いたします。
ホームページからもチケット購入ができる、便利なクラシック専門のプレイガイドです。